

JAHER*Japanese Association of Higher Education Research***日本高等教育学会ニューズレター**

会長就任にあたって	会長 天野 郁夫
-----------	----------

このたび理事会のご推挙により、思いがけず初代の会長をつとめさせていただくことになりました。すでにあまたの学会があるなかで、新しい学会を立ち上げ、発展をはかっていく上で、今後予想される問題や困難は少なくありません。しかしいま、わが国の高等教育が直面している状況を考えれば、高等教育に研究・実践・政策上の関心をもつ人々を結集し、知識や情報の交流をはかり、現状に批判的・反省的な分析のメスを加え、研究と実践の新しい地平を切り拓いていくことの重要性は、どれほど強調しても、しすぎることはないでしょう。

学会の発足大会には、150名をこえる会員が参加しましたが、研究者に限らず、大学の運営管理や政策の立案・実施にかかわる人たちをふくむ参加者の多様性は、高等教育をめぐる問題の多様性と重要性を、あらためて認識させるに十分なものでした。また大会シンポジウムでの報告者に、2人のアメリカ研究者を迎えることができましたが、それは高等教育の問題が、いまや国際的な、グローバルな広がりをもつことの象徴ともみえました。

規模からすればまだ小さくはありますが、会員の皆様はもちろん、外部の高等教育関係者からの大きな期待のもとに発足した学会です。充実した水準の高い学会に育て上げるために、微力ではありますが、会長としての重責を果たさせていただきたいと思っております。会員の皆様方のご協力を、心よりお願い申し上げます。

目次

会長就任にあたって 第一回大会の大会校をお引き受けして 第一回大会日程 学会の設立趣旨 設立大会の報告 1997年度の予算案と事業計画 役員構成 理事会の記録	運営小委員会の記録 紀要創刊号の構成 アメリカ高等教育学会との交流 日本高等教育学会会則 入会手続きのお知らせ 新入会員名簿 転任・転居・住居表示変更等 寄贈文献リスト
--	---

第一回大会の大会校をお引き受けして
大会実行委員会委員長 有本 章

日本高等教育学会の第一回大会につきましては、広島大学を会場に開催するとの決定が設立総会において行われ、大会校をお引き受けすることになりました。

本学会は、その重要性が広く理解されると同時に、各方面からの暖かいご協力・ご支援に支えられて、本年度の設立大会において誕生する運びになりました。設立に関係してきました一人として、そのことを大変うれしく思っております。

このような設立大会が重要であることは無論であります。次期大会もそれに劣らず重要であると言えるのではないのでしょうか。特に、会員各位の自発的な報告が自由発表によって開始されること、あるいは学会で大切だとする課題研究などの企画が開始されることは、所期の理念や目的を実際に実現するための第1歩を踏み出すことを意味しております。そのことを考えますと、次期大会は節目の大会になるのではないかと考えられます。

日時は、平成10年5月30日(土)、31日(日)の両日、場所は広島大学教育学部を主会場に予定しております。内容については、理事会や運営小委員会において検討中ですので今のところ未定の部分もありますが、大会実行委員会としましては、総会を皮切りに自由発表、課題研究、シンポジウム、懇親会などを行うことになるものと考えております。このうち、自由発表には何人位の会員から応募があるか、過去のデータがなく、正直のところ予想が付きませんが、予約会場が不足するほどの申し込みが殺到することを期待しております。

会員の皆様のご期待に添えるように準備を行いますとともに、多数のご参加を心からお待ち申し上げますので、ご協力・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

第一回大会日程

- ① 1日目 (1998年5月30日 土曜日)
- 受付 11:00～
 - (理事会 12:00～13:00)
 - 開会式 13:20～13:30
 - 自由発表 13:30～17:40

懇親会 18:00～19:30

2日目 (5月31日 日曜日)

- 課題研究 9:30～12:00
- 昼食 12:00～13:00
- 総会 13:00～13:30
- シンポジウム 13:30～16:00

② 大会までの日程

発表申し込み用紙の送付

1997年11月

発表申し込み締め切り

1998年2月末日

プログラムの発送

3月末日

発表予稿集原稿締め切り

4月10日

③ 発表時間

発表人数	発表時間	質疑応答時間
1人	20分	5分
2人	35分	10分
3人以上	50分	15分

④ 課題研究及びシンポジウムのテーマについて

課題研究

「大学入試のゆくえ」(仮題)

「学生からみた大学改革」(仮題)

シンポジウム

「2008年の高等教育—ユニバーサル化への道—」(仮題)

⑤ その他

発表者の重複は課題研究及びシンポの発表を除いて不可とする。発表資格者はシンポの発表を除いて1997年度の会費を納入した会員であること。

学会の設立趣旨

現在、大学を中心とする高等教育は世界的に構造的な変動の時代をむかえ、実践的、政策的な課題への取り組みと、多様な学問領域からする研究関心の高まりをみるに至っております。

わが国でも、一連の改革や構造変動の進展とともに、高等教育研究の必要性和重要性に対する認識が強まり、大学研究や実践・運営のためのセンター等が相次いで設立され、また大学院に高等教育関係の研究者養成あるいは専門職養成のためのプログラムが開設されるなど、教育研究体制の整備の動きが本格化しはじめました。

高等教育研究は、対象とする高等教育のシステムとしての複雑性や、問題としての多様性から、社会科学や人文科学、さらには自然科学にも及ぶ大きさと広がりをもっており、そのことがこれまで独立の学会の成立を妨げていました。しかし、変動の時代をむかえていっそう明らかになった高等教育研究に係わる諸問題とその研究の重要性を考えると、学問領域の違いをこえた研究者等の結集と交流をはかり、研究の理論的、方法的基礎を強化し、研究の一層の深化発展をめざすとともに、その研究成果の普及を図り、実践的、政策的課題の解決に寄与するために、学会の設立は重要な課題となりつつあります。

こうした状況をふまえ、このたび次のような有志が集まり、発起人となり日本高等教育学会の設立を企画いたしました（○印は代表）。

麻生 誠	阿部美哉	○天野郁夫	荒井克弘
有本 章	市川昭午	潮木守一	馬越徹
江原武一	大崎 仁	梶田勲一	金子元久
喜多村和之	高橋靖直	館 昭	寺崎昌男
原 康夫	矢野眞和	山野井敦徳	山本眞一

設立大会の報告

日本高等教育学会設立大会が去る7月19日（土）に東京大学法文2号館において150名を超える会員のご参加をいただき開催されました。今回は新学会の発足ということもあって設立総会と特別記念講演が主要な柱となりました。設立大会の概要につきましては以下の通りです。

設立総会は、総合司会の山本眞一氏（筑波大学）から日本高等教育学会（仮称）の準備会の経緯について説明があり、発起人による呼びかけ文書に述べられているように、当日の参加者をもって総会が成立するものと解釈する旨の宣言がありました。その後、館昭氏（学位授与機構）が議長に選出され、学会設立、学会員（7/11現在、241名）、会則等の承認及び理事の選出が行われました。小休憩時に第一

回の理事会が開催され、会長には互選により天野郁夫氏（国立学校財務センター）が選出され、会長は有本章氏（広島大学）を事務局長に委嘱されました。ひきつづいて総会では理事会案の役員人事が会長、事務局長、幹事、監査役及び編集委員会委員等を含めて決定され、1997年度事業計画案及び予算案も承認されました。なお事務局については当分の間、広島大学大学教育研究センター内に置かれることが了承されました。

以上をもちまして本学会を発足させるための一応の骨格が了承され、設立総会は無事終了いたしました（役員、予算案、事業計画、編集委員会等の詳細については別項を参照ください）。

記念講演会について

設立総会后、今回は記念講演会が開催されました（司会：有本章氏・矢野眞和氏）。新会長の天野郁夫氏は「高等教育の未来像」と題して、このたびの学会発足の重要性、これまでの研究活動の展開、さらにこれからの大学を取り巻く状況の変化に言及されながら、欧米モデルへの反省からアジアモデルの可能性を提示された。高等教育研究に長年ご貢献されてきた喜多村和之氏（国立教育研究所研究部長）は「日本の高等教育研究の過去・現在・未来」と題して、ご自身の広島大学大学教育研究センター時代の体験を振り返りながら、過去・現在の高等教育研究の状況に言及され、これからの課題として研究の大衆化に伴う機能分担、協力関係、細分化と全体性の調和と目的性のある高等教育研究の重要性を力説された。さらに長年高等教育の発展にご尽力された大崎仁氏（日本学術振興会理事長）は「高等教育研究への期待」と題して、過去の高等教育の混迷期にあつて高等教育研究の必要性を説かれ、高等教育研究の制度化のための予算化にご腐心された経緯をご講演いただくとともに、これからの高等教育研究として拡大と深化とりわけ教育を重視した各論としての専門研究を期待された。

ひきつづいて特別招待講演会としてお二人にご講演をいただいた（司会：阿部美哉氏）。現在メリーランド大学教授でアメリカ高等教育学会の会長を務めてこられたR. パーンバウム氏には「日米の高等教育研究について」と題して、米国の高等教育の状況やアメリカ高等教育学会の歴史と現状についてご講演いただくと共に、学会での研究領域と方法について詳細に言及された。それを踏まえて日米には共

通する研究課題が山積しており、これまでの先行研究の蓄積の上にたった大学教育、大学運営、ファカルティ等においてより一層の比較研究の可能性を示唆された。最後に日本ではお馴染みで日本の高等教育には格別ご造詣の深いW. カミングス氏（ニューヨーク州立大学バッファロー校）には「高等教育の未来と高等教育学会への期待」と題してユーモアを交えた日本語でご講演をいただいた。氏は現在の日本の高等教育を支える経済的・社会的基盤に言及され、日本の高等教育制度はもっと社会に開かれた大学をめざすべきだとし、研究予算の確保、大学と社会の共同研究等によって高等教育研究自体が社会的に有効な知識を構築できるのではないかと提案された。これらは大学を基本的に構成する知の諸形態をめぐって知識の社会的市場を背景に知自体のあり方を問い直すものであった。

以上を以て日本高等教育学会の設立大会は盛会裡に幕を閉じた。

懇親会について

設立大会後、夕方からは東京大学生協中央食堂において懇親会が開催された。来賓ご挨拶としては文部省事務次官の佐藤禎一氏から学会発足のご挨拶を頂戴し、日本教育社会学会会長の潮木守一氏（名古屋大学）からは関連学会長の代表として激励のお言葉をいただいた。乾杯の音頭は武庫川女子大学教授の新堀通也氏にとっていただき新学会発足を参加者一同で祝した。その後100名前後の新学会員の交流と親睦がはかられた。

1997年度予算案と事業計画

① 予算案

収入の部

発起人の拠金（17人）	200,000円
1997年度会費（10,000円×200人分）	
	2,000,000円
	計2,200,000円

支出の部

1997年度設立大会補助経費	100,000円
紀要出版費（編集経費を含む）	1,300,000円
会議費	160,000円
通信発送費	150,000円
印刷費（封筒、ニュース・レター、会員名簿	

等）	200,000円
事務用品・消耗費等	50,000円
事務局人件費（名簿整理、発送アルバイト等）	180,000円
予備費	60,000円
合計	2,200,000円

ただし、会則第4章第14条の規程に従い、1997年5月から1998年4月までとする。

② 事業計画

1. 紀要編集委員会の設置と紀要の発行
2. ニュースレターの発行（年2回程度）
3. 会員名簿の発行
4. その他

役員構成

学会長：天野郁夫（国立学校財務センター）

事務局長：有本章（広島大学）

幹事：山野井敦徳、今井重孝、服部憲児、冠野文（広島大学）

監査：大江淳良（リクルート・リサーチ）、加澤恒雄（広島工業大学）

理事（20名）

麻生誠（放送大学）、阿部美哉（国学院大学）、天野郁夫（国立学校財務センター）、荒井克弘（大学入試センター）、有本章（広島大学）、市川昭午（国立学校財務センター）、潮木守一（名古屋大学）、馬越徹（名古屋大学）、江原武一（京都大学）、大崎仁（日本学術振興会）、梶田勲一（京都大学）、金子元久（東京大学）、喜多村和之（国立教育研究所）、高橋靖直（玉川大学）、舘昭（学位授与機構）、寺崎昌男（立教大学）、原康夫（帝京平成大学）、矢野眞和（東京工業大学）、山野井敦徳（広島大学）、山本眞一（筑波大学）

紀要編集委員会委員（9名）

荒井克弘（大学入試センター）、有本章（広島大学）、馬越徹（名古屋大学）、江原武一（京都大学）、金子元久（東京大学）、舘昭（学位授与機構）、矢野眞和（東京工業大学）、山野井敦徳（広島大学）、山本眞一（筑波大学）

理事会の記録

第1回(7月19日 東京大学)

出席者：麻生誠、阿部美哉、天野郁夫、荒井克弘、有本章、市川昭午、潮木守一、馬越徹、大崎仁、金子元久、喜多村和之、高橋靖直、館昭、原康夫、矢野眞和、山野井敦徳、山本眞一

1. 会長の選出

学会の会則第8条第2項規程に従って、理事の互選により天野郁夫氏を会長に選出した。

2. 事務局長と幹事の委嘱

事務局長は有本章氏に委嘱し、事務局は会則により当面広島大学大学教育研究センター内に置かれることになった。事務局幹事は山野井敦徳、今井重孝、服部憲児、冠野文の各氏に委嘱した。

3. 紀要編集委員会委員の選出

発足時で紀要編集規程も成文化されていないため、当初の準備会メンバー9名が紀要編集委員会を構成し、当面紀要編集作業をすすめることで了承された(委員長、矢野眞和氏)。

4. 1997年度の予算案と事業計画案について

第2回(8月23日 東京大学)

出席者：阿部美哉、天野郁夫、有本章、馬越徹、大崎仁、金子元久、喜多村和之、館昭、原康夫、矢野眞和、山野井敦徳、山本眞一

1. 学会運営について

①当面、学会を効率的かつ機動的に運営するために学会運営小委員会を設置する。

②その構成メンバーは学会長とこれまでの準備会メンバー(荒井克弘、有本章、馬越徹、江原武一、金子元久、館昭、矢野眞和、山野井敦徳、山本眞一)からなる。

③入会承認については本小委員会でも審議可とする。

④理事会と本小委員会の役割区分については別途審議する。

2. 第一回大会について

①第一回大会については設立総会で報告されたように来年5月30日/31日の2日間にわたって広島大学を会場に開催される。

②大会の統一テーマ、自由研究申し込み締め切り期日、発表時間等について前もってニュースレターに掲載する。

③大会実行委員会を結成して大会を企画する。

3. 新入会員の承認について

新入会員の加入については別項の通り承認された。

運営小委員会の記録

第1回(10月9日 東京大学)

1. 第一回大会の運営等について

具体的な大会の日程について別項の通り大枠が決められた。

2. 紀要の編集について

紀要編集委員会(矢野眞和委員長)から創刊号の構成についての提案があり、協議の結果、原案通り了承された。

紀要創刊号の構成

紀要テーマ『高等教育研究の現在』

第1部 高等教育研究の地平(設立大会の講演者3名)

第2部 高等教育研究の潮流(理事の中から投稿者6名)

第3部 高等教育研究の国際動向(外国からの招待講演者2名)

第4部 高等教育研究への期待(会員依頼10名程度)

アメリカ高等教育学会との交流開始

設立大会でご講演いただいたR. バーンバウム先生(メリーランド大学教授、元アメリカ高等教育学会会長)のお話のなかでもご紹介されましたが、本学会長をアメリカ高等教育学会(Association for the Study of Higher Education)の名誉会員に、との申し出がありました。その後初代の名誉会員として天野郁夫学会長を正式に承認したとの連絡が現学会長ジョージ D. クー氏(George D. Kuh)からありました。これを機会に両学会の学術的な交流が今後ますます盛んになることを期待しつつご報告いたします。

第1章 総則

第1条 本会は、日本高等教育学会と称し、英語名を Japanese Association of Higher Education Research (略称JAHER) とする。

第2条 本会は、高等教育研究の推進及び研究成果の普及並びに会員相互の研究交流の促進を目的とする。

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、以下の事業を行う。

1. 高等教育に関する研究とその振興と普及
2. 研究大会等研究集会の開催及び会員間の研究交流の促進
3. 機関誌等研究成果の公表
3. 高等教育関係団体及び関連機関との連携協力
4. 高等教育研究に関する国際協力の推進
6. その他、本会の目的に必要な事業

第2章 会員

第16条

第4条 会員は、会員2名以上の推薦を受け、理事会の承認を経て入会する。

第5条 会員の退会等の扱いについては、別に理事会が定める規定による。

第3章 組織及び運営

第6条 本会に以下の役員を置く。

1. 会長 1名
2. 理事 20名以内
3. 監査役 2名

第7条 役員の仕事は、以下のとおりとする。

1. 会長は本会を代表し、会務を総理する。
2. 理事は理事会を組織し、本会の運営に当たる。
3. 監査役は会計を監査する。

第8条 役員を選出は、以下のとおりとする。

1. 理事は、別に定めるところにより、会員が選挙する。
2. 会長は、理事の互選による。
3. 監査役は、総会において理事以外の正会員の中から推挙する。

第9条 役員の仕事は、以下のとおりとする。

1. 役員の仕事は2年とし、再選を妨げない。

2. 前号の規定に係わらず、会長の任期は引き続き4年を超えることはできない。

第10条 本会の会務を執行するために事務局を置き、その組織及び選出方法は以下のとおりとする。

1. 事務局長 1名 理事会の承認を経て会長が委嘱 任期2年
2. 幹事 若干名 会長の承認を得て事務局長が委嘱 任期2年

第11条 本会は必要に応じ、理事会のもとに各種の委員会を置くことができる。

第12条 本会は年1回、総会及び研究大会を同時に開催する。

第4章 会費及び会計

第13条 会員は会費を納入しなければならない。会費の額については、理事会が提案し、総会の議による。

第14条 会計年度は5月から翌年の4月とする。

第15条 本会の予算案は理事会が編成し、総会の議決を経て成立する。

第16条 本会の会計決算は監査役による会計監査を経て、翌会計年度初頭の総会において承認を受けなければならない。

第5章 会則の変更

第17条 本会則の変更は理事会が提案し、総会の議決による。

第6章 付則

第18条 第8条の規定に係わらず、本会の設立時の理事は、発起人をもって充て、設立総会の承認を受けて就任する。

第19条 事務局を、当面広島大学大学教育研究センター内に置く。

第20条 その他、必要な事項については理事会の審議による。

入会手続きのお知らせ

新しい学会なので入会したいが手続きが分からないとお困りの方がおられるかも知れません。入会の手続きは本学会の会則により2名の会員推薦を必要とします。申請書類は学会の事務局にございますので、

推薦会員または加入希望者の方は事務局にお電話にて直接ご請求ください。正式の会員になるためには①会員の推薦者2名、②申請書類の提出、③初年度会費の納入、④理事会での承認等の手続きが必要となります。

新入会員名簿

氏名	〒	住所	電話	所属
----	---	----	----	----

転任・転居・住居表示変更等

氏名 〒 住所 電話 所属

寄贈文献リスト

- ・新潟大学大学教育研究開発センター『大学教育研究年報』第3号（1997年）
- ・新潟大学大学教育研究開発センター『平成8年度 教養科目授業改善のための学生へのアンケート調査報告書－学生による授業評価－』（1997年）
- ・江淵一公『大学国際化の研究』（玉川大学出版部、1997年）
- ・天野郁夫『大学を語る－22人の学長』（玉川大学出版部、1997年）
- ・天野郁夫『教育と近代化－日本の経歴』（玉川大学出版部、1997年）
- ・京都大学高等教育教授システム開発センター編『開かれた大学授業をめざして－京都大学公開実験授業の一年間』（玉川大学出版部、1997年）
- ・M. J. ワース、J. W. アスプⅡ著（山田礼子訳）『大学開発の担い手』（玉川大学出版部、1997年）

（寄贈日順）

日本高等教育学会ニユースリスト No. 1
1997年11月1日発行
発行 日本高等教育学会事務局
事務局長 有本 章
事務局 広島大学大学教育研究センター内
住所 〒739 東広島市鏡山一丁目2番2号
Tel: 0824-24-6241, 6242
Fax: 0824-22-7104
e-mail: hnanbu@ipc.hiroshima-u.ac.jp
fumik@ipc.hiroshima-u.ac.jp